

文化財保存新潟県協議会・第17回大会

「戦争の記憶に向き合う ～戦争の痕跡を護り として学ぶ～」

今年度の文化財保存新潟県協議会総・大会を以下のように開催いたします。

総会は文化財保存新潟県協議会会員（新潟県内在住の文化財保存全国協議会会員）が年に一度集まり、本会の活動を振り返り、今後の指針を協議する重要な会です。また、大会は広く市民に参加を呼びかけ、遺跡と歴史と一緒に学ぼうという機会です。

先の大戦が終結してから今年で70年。あらたな安全保障体制の整備など、政治的には大きな動きが進行中です。一方、「戦争の記憶」を語り伝える場所としての「戦争遺跡」が注目されています。

「戦争遺跡」とは文字どおり「戦争に関係した遺跡（遺構や構造物、跡地）」のことですが、現代的視点からいうと「近代日本の対外（侵略）戦争とその遂行過程で、加害・被害・反戦抵抗にかかわって国内および国外で形成され、かつ現在に残された遺構・構造物および跡地のこと」（戦争遺跡保存全国ネットワーク編『戦争遺跡から学ぶ』岩波ジュニア新書）となります。文新協恒例の遺跡見学会では2002年に長野市松代大本営跡を訪ね、保存運動が地元高校生の活動から始まったことを学びました。太平洋戦争で国内唯一の地上戦が行われた沖縄では数多くの戦争遺跡が修学旅行の中高生の学びの場となっています。原爆ドームは世界遺産としておなじみですね。このような歴史の負の遺産を見直し学び保存する活動は、1980年代以降全国各地で地道に繰り返されています。

そこで今回の大会では、これら「戦争遺跡」の保存と活用について学びます。本会の上部団体である文化財保存全国協議会の代表委員である十菱駿武さん（山梨学院大学客員教授）からご講演いただきます。十菱さんは山梨県の遺跡を中心に広く人類の文化遺産を研究するかわら、戦争遺跡保存全国ネットワークの代表として全国の戦争遺跡の保存運動をリードしています。新潟大学でも長く文化財保護論の集中講義を担当され、考古学・歴史学を学ぶ学生の指導に当たっています。その豊富な知識と経験を踏まえ、戦争遺跡の現状について語っていただきます。

また、ご講演のあとは、新潟市近郊を中心に見られる身近な「戦争遺跡」についての報告を予定しています。普段わたしたちがなにげなく見ている日常の風景の中にどんな「戦争の記憶」が隠されているのか。「目から鱗」の話が飛び出しそうです。

大会は事前申し込み不要です。みなさんふるってご参加下さい。

と き：2015年7月11日（土）

ところ：新潟市歴史博物館（みなとぴあ）・2階セミナー室

日 程：総 会 12：30～13：00

大 会 13：00 一般受付開始

13：30開会～16：30（終了予定）

講演「戦争遺跡を考える」

十菱駿武 さん（文化財保存全国協議会代表委員）

報告「わたしのまちの『戦争の記憶』」

懇親会 17：00～（要予約。会費4500円程度。）

※資料代500円をいただきます。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

第17回大会開催によせて… わたしの「戦争の記憶」

今年度の文新協大会は「戦争の記憶に向き合う～戦争の痕跡を護り、そして学ぶ～」と題して、戦争遺跡を取り扱うことになりました。そこで、戦争体験を持つ会員の方からうかがった「戦争の記憶」をご紹介します。

新潟市北区にお住まいの渡辺知夫さん（本会運営委員）は1931（昭和6）年生まれ。1937年の「支那事変」（日中戦争）勃発時は6歳でした。1941年の太平洋戦争開戦時は小学校4年生（10歳）で、全校朝礼で校長先生が「神国日本は必ず勝つ。少国民よ頑張れ！」という檄の訓話をしたことが頭に残っているそうです。以下は、実際に渡辺さんが見聞きした新潟の「戦争の記憶」です。

1944年に新潟工業学校（現、新潟県立新潟工業高等学校）に入学（13歳）。校門を入ると奉安殿があり、敬礼を忘れて素通りすると非国民と叱られた。新潟港は大陸との重要な物資や人の移動の拠点になっていたので、米軍による港湾施設封鎖の機雷の投下が盛んに行われるようになり、B29の夜間空襲が増えた。ある夜、高射砲弾がB29に命中し、火を噴きながら横越付近に墜落したことがあった。空襲は夜間であってサイレンで知らされたが、回数が多くなると慣れてしまっていて知らずに朝を迎えることもあった。ただ一度、登校中に艦載機による空襲があった。当時、学校は浜浦小学校の隣、今の日本歯科大のところにあった。関屋中学校は戦後の建物で、当時付近は新潟競馬場がある他はほとんど松林の中にあったが、いきなり低空でグラマン機が現れ慌てて松林に逃げ込んで何発かの機銃の音を聞いたが、被害はなかった。乗員の姿が見えたという話もあって、そのくらい低空だったのだろう。

1年に入学した頃から校内で4・5年生の姿はめったに見られず、それも次第に2・3年生までも学徒動員で軍需工場に動員されていった。信濃川左岸の鉄工場から動員の生徒の乗った通勤用の川渡しの舟が機雷に触れて沈没し、多数の死者を出した。翌日登校すると、緊張した学校関係者の異様な雰囲気の中で体育館に集められて、その舟に乗っている可能性のある生徒たちの安否を通学地区別に手分けして確認をするということだった。亡くなった生徒は数名、負傷した生徒もそのくらいの数だったように記憶している。

（この「鉄工丸事件」については、5月20日付「新潟日報」が紹介しています。事務局注）

B29は夜間にやってきて港封鎖の機雷を落として去って行った。しかし、落とし損ねた機雷は帰路の機体を軽くするため無差別に捨てていった。そのひとつが港から15kmも離れた民家から数10mと近い田圃だった。今の豊栄高校の入口付近で、戦後になって信管を取り外したということだったが、その場所に建物が建つということで数年前にやっと全部が撤去された。

（この不発弾処理は2010年12月5日、新潟市北区川西1丁目地内で行われました。当時の新聞記事によると、「不発弾は米国製の機雷。長さ2.1メートル、直径58センチで重さ835キロ。地下約6メートルに埋まっていた。太平洋戦争中に米軍航空機が標的にしていた新潟港から基地に戻る途中、捨てたとみられる。」（日本経済新聞ホームページより）とあります。事務局注）

終戦間近、本土決戦に備えての飛行場づくりに動員された。場所は今のふるさと村、新潟日報社の付近の河原で、沼地の埋め立てでブヨブヨする軟弱な土地に石のローラーを引いての整地作業だった。何とも先の見えない真夏の作業だったが、それでも終戦後になっていくらかの日当をもらったことを覚えている。焼夷弾爆撃に備えて類焼を少なくし、避難道路拡幅のために道端の家は疎開させられ壊された。当時の市役所（今のNEXT21）脇の住宅が壊されるのを目にしたが、柱にロープを結んでよしよよしよと引っ張り倒すような幼稚な工事だった。戦局は悪化、広島・長崎に新型爆弾が投下され、次は新潟だと避難命令が出され、夜を徹して避難者の列が続いたと仄聞した。

終戦後、公会堂（今の音楽文化会館のところにあった）、県政記念館、新津記念館など多数の建物が進駐軍に接收され、占領行政の拠点になった。進駐軍のやんちゃぶりのひとつに、あさひまち展示館（新潟大学旭町学術資料展示館）の前のしょうこん坂をジープが登ったという話を聞いた。

以上ご紹介したのは渡辺さんからご教示いただいた体験の一部ですが、現在の日常の風景の中にこうした戦争の痕跡が残されていることに改めて驚かされます。大会ではこれら新潟県内に残されている「戦争の記憶」を掘り起こしていきたいと考えています。みなさんもぜひご紹介ください。

（事務局）

埼玉・群馬の豊かな古墳文化を堪能した2日間!!

2014年11月29日（土）・30日（日）「古代国家成立を考える埼玉・群馬の旅!!～稲荷山鉄剣と東日本最大の太田天神山古墳を中心に～」を開催いたしました。参加者は20名。2日間で埼玉県比企郡吉見町吉見百穴、埼玉県行田市さきたま史跡の博物館および埼玉古墳群（稲荷山古墳・將軍山古墳など）、八幡山古墳、群馬県太田市朝子塚古墳、塚廻り古墳群、太田天神山古墳・女体山古墳、上野国新田郡庁跡、中溝・深町遺跡（豪族居館）、円福寺（別所）茶臼山古墳、群馬県邑楽郡大泉町古海原前1号古墳、大泉町文化むら（原前1号古墳出土遺物など）を見学しました。1日目の午前中は雨に降られましたが、遺跡の見学を開始すると快晴に。その後はさわやかな秋晴れの中、たくさんの遺跡を堪能しました。（事務局）



忍城攻略で石田三成が陣をとった丸墓山古墳と石田堤

「古代国家成立を考える埼玉・群馬の旅!!」参加レポート

西田 静夫（本会運営委員）

東日本の古墳王国といわれる埼玉・群馬の代表的な遺跡を見学することができ有意義な旅でした。そのなかで、埋蔵文化財保存の活動に関して印象に残った遺跡が2ヶ所みられました。

1つは、群馬県大泉町の古海原前1号墳（円墳）です。この古墳は古海原前古墳群（26方墳）の一つですが、全長54mを測り、墳丘周囲には周堀が巡っていたとされますが、特異なのは埋葬施設が堅穴系で4基が重葬されており、最下層（第4主体部）は粘土槨で、上部3層（上から第1・2・3主体部）は礫槨。全国的にも珍しい埋葬施設といわれています。もともと町道整備のため、調査が終われば消滅の危機にあった遺跡ですが、関係者（調査担当者、研究者、行政当局）の遺跡保存に対する熱意が地域住民に理解され、復元・保存され一般公開されている遺跡です。

2つ目は群馬県太田市の中溝・深町遺跡です。この遺跡は、1994（平成6）年～1996年に新田東部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査において、古墳時代前期（4世紀末～5世紀初頭）の豪族の生活などをうかがわせる居館の遺構や遺物など関連する資料が大量にまとまって発見されました。発掘当時の記録写真（パンフレット）などをみると、遺跡部分を南北に貫通する一本の主道路が工業団地を造る前からありました。その後、調査の進展に伴い遺跡の重要度が認知され、その道路の下を発掘調査後、道路は遺構部分で寸断し迂回させて、遺跡は「小金井史跡公園」として整備されていました。この遺跡がここまでの道のりは並大抵のことではなかったと思います。ここにも関係者（前述）の遺跡保存の熱意と理解があったればこそと感じました。

因みに、本会前会長の甘粕健先生と現会長の橋本博文先生（当時副会長）が、当遺跡の重要性和保存・活用について、強く当局に要望されたとお聞きしました。



古海原前1号古墳



塚廻り古墳群の埴輪



中溝・深町遺跡



「吉見百穴」にビックリ！



稲荷山鉄剣にご対面

【参加者の感想】

○沢山の資料と綿密な計画による大変良い旅でした。年を重ねているので大抵のことには驚かなくなっているが、「吉見百穴」はびっくりしました。天神山古墳と女体山古墳の比較も実際に歩いてみてよくわかりました。また、古墳人が「ベンガラ」（酸化第二鉄）を原料にして染めることを知っていたとは、知恵のあるのに感心しました。豊富な知識で解説していただいたことに感謝いたします。考古学を学んでいる方は純粋で好奇心に溢れ青春の志を持っている方が多いことを知り得た2日間でした。

○さきたま古墳群の見学、期待通りで大満足でした。稲荷山鉄剣は本物を見たかったので、展示があり興奮しました。塚廻り古墳は埴輪の数の多さと質の高さに驚きました。

○楽しかったです。たくさんのハニワを見ることができました。足腰を鍛えて、また参加したいと思っています。事故もなく無事到着!! によりでした。

今年の文化財保存全国協議会大会は湘南茅ヶ崎で開催！

第46回湘南茅ヶ崎大会「古代官衙の保存とまちづくり —史跡を活かしてまちを元気にする—」

文全協会員の皆様にはすでに「文全協ニュース No. 204」でお知らせしているとおり、今年度の文全協大会が、神奈川県湘南茅ヶ崎で開催されます。詳細は文全協ホームページをご覧ください。

神奈川県茅ヶ崎市下寺尾遺跡群は白鳳期の寺院跡、相模国高座郡衙(たかくらぐんが)跡が一体になった遺跡群です。当遺跡群について、研究団体と市民団体から保存要望が出されました。県および市においても遺跡の重要性を評価し、保存手続きを進めて今年3月に国指定史跡となりました。これを記念し、古代日本の役所遺跡などの史跡を活用したまちづくりのあり方を考えます。

【6月19日(金)】全国委員会・総会・常任委員会

【6月20日(土)】遺跡見学会「相模川流域の遺跡を巡る」・懇親会(参加申し込みは終了しました。)

【6月21日(日)】大会 9時30分～16時30分 ※大会は事前申し込み不要です。

会場 JAさがみ農業協同組合茅ヶ崎ビル大会議室 資料代500円

テーマ 「古代官衙の保存とまちづくり —史跡を活かしてまちを元気にする—」

講演 「古代相模の地方官衙と律令国家」佐藤信氏(東京大学教授)

「考古少年」が見た茅ヶ崎市の埋蔵文化財保護行政—市民と行政の30年—
宮瀧交二氏(大東文化大学教授)

編集後記

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には可能な限りお送りしています(ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります)。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は事務局までご一報下さい。

文化財保存新潟県協議会事務局(入会についてのお問い合わせも)

E-mail: bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp

ホームページ: <http://www014.upp.so-net.ne.jp/bunsin-k/>

文全協のホームページ
もぜひご覧ください。